

LOGBOOK

LOG 1 今年4月に創業100周年を迎えるサノヤス・ヒシノ明昌。1911年に大阪の木津川沿いに誕生した“佐野安造船所”が同社の始まりだが、上田孝社長は「1911年が第1の創業で、陸上部門に事業を多角化した時期が第2の創業だったといえます。そこで、今年を第3の創業と位置付けたいと思っているんですよ」と話す。「100周年用に、今年のスローガンを社内で公募して、良いものを選びました」。選ばれたスローガンとは？「それは、まだ秘密。4月の社内行事に合わせて、発表する予定です」とニコリ。

LOG 2 東京スター銀行などで船舶融資を長年にわたって手掛け、このほど青山総合会計事務所の顧問に就任した木原知己氏と久しぶりに面会。以前と変わらず元気な様子で、新天地で「今までにない新しい挑戦」をしていくと意欲満々だ。青山会計事務所は国内船主を中心とした海事関係のコンサルティング業を強化していく方針を打ち出している。「われわれの客観的な視点から、船主の経営をサポートできればと思っています。日本の海事クラスターの発展に少しでもお役に立てれば、と考えております」と抱負を述べる。

LOG 3 「(日本郵船)グループの中で最も適した人材と見込んで来てもらった」と語るのは、郵船ロジスティクスの矢野俊一会長。後任に選んだ倉本博光社長を評しての弁だ。「(郵船時代に)一緒に仕事をした期間は短いけど、とにかく行動力が印象深い。フォワードには活力と行動力がないとうまくいかない。トップには適任だ」と改めて太鼓判を押す。倉本社長も行動力が強みと自認しており、「猪突猛進」というか、よく言えば積極性はある。前へ進んで、この会社を大きく伸ばしていきたい」と、やや照れながら応じた。

水エマルジョン燃料を共同研究

■NK/ユニバーサル/ナノマイザー

日本海事協会(NK)は18日、ユニバーサル造船、ナノマイザー(本社=横浜市、松村健彦社長)と水エマルジョン燃料を用いて船用機関から排出されるCO₂とNO_xの同時低減技術の実現性を検証する共同研究契約を締結したと発表した。

基本技術はナノマイザーの湿式超微粒化技術で、高レベル乳化技術を重油燃料に適用し、内包される水粒子をナノ化する。既に陸上の中小型

内燃機関、各種工業炉、ボイラーなどでは実用化している。

NKの「業界要望による共同研究」スキームで支援と協力を得て、実船で船用ナノエマルジョン燃料と製造システムの検証を約1年間行う。装置(写真)を船舶上に搭載し、燃費削減効果、NO_x低減効果を検証。運航上の安全面、性能面を確認する。

NO_x規制への複合技術の1つとして有用で、燃費改善の効果も期待される。



海技研、第7回船舶用CFDセミナー

海上技術安全研究所は2月18日に品川で第7回CFD(数値流体力学)セミナーを開催する。

省エネ付加物付き船体の解析に

対応した新開発のCFDソフトや計算例、ユーザー事例を紹介する。

▷日時=2月18日午後1時30分~4時30分(受付:午後1時)

▷場所=品川イーストワンタワー21階(東京都港区港南2-16-1)

参加費無料、事前登録制。申し込みは海技研CFD研究開発センター(FAX0422-41-3053、e-mail: cfd_info@nmri.go.jp)で受け付け。